佐渡一 毅 のドレッサージュトレーニング

vol.15

2020年7月～8月

2020年6月から8月にかけて一時帰国し、8月からトレーニングを再開しました。Ludwig はトレーナーの Imke が運動してくれていました。前号で紹介したように、ラウンドさせて背を使わせてから馬を起こしてくる方法より、馬を強制的に起こしてから背中を使わせる方法が効果があると判断し、そのようなトレーニングを積んできたとのことでした。そのおかげで、駈歩での力みが取れてバランスが改善したことを感じました。

トレーニング

今回は Djuice のトレーニングについて紹介します。Djuice は2018年のアジア大会で騎乗した馬で、セントジョージ、インターメディエイトクラスの課目は問題なくこなします。グランプリについては、個々の運動をトレーニングしているところです。

ピアッフェは元々得意なので、今はそのクオリティをさらに上げるトレーニングをしています。トレーナーから「ピアッフェ中にもさらに後躯を踏み込ませて、そこで馬を譲らせるように」と指示があり、それにトライしましたが、最初は苦しくなって横へ逃げ出し、立ち上がろうとするしぐさも見せました。しかし要求を続けると、これまでこの馬からは感じたことがないほどしっかりと前後が繋がり、リズムをより強くとって、前肢もより高く上げてステップを踏むようになりました。Djuice のクオリティからは考えられないほどの動きに驚きましたが、この馬がここまでやれるということを学べた瞬間でした。そして、馬の動きの限界を勝手に人が決めつけてはいけないと反省すべき出来事でした。

1歩毎踏歩変換（フライングチェンジ）

今回のメインテーマは1歩毎の踏歩変換です。これまでどのようなトレーニングを行い、どのような効果を得てきたのかをまとめてみます。なお、このトレーニングは1歩毎踏歩変換の扶助をある程度理解し始めた馬が対象です。

◇2歩毎を輪乗りの中で行なってから直線上で1歩毎を行う（初期）

2歩毎を輪乗りで行うことによって、変換の脚扶助に対してより従順になるとともに、馬が自分でバランスを取ろうとする。このバランスへの意識を1歩毎に利用して、変換時にバランスが崩れることを防ぐ。

◇1歩毎2回を2歩毎に行う（初期）（現在）

右駈歩から始めると、左右 右 左右 右 左右 右……となる。初期の調教では、3～5歩毎に1歩毎を2回でもかまわない。まずは確実にできる1歩毎2回を行い、それを数歩毎に何度も行う方法。1歩毎2回を2歩毎に行うところまでくると、馬は1歩毎の扶助がすぐにくると構えるようになり、騎乗者も次々に扶助を出さなければならないので、バランスと真直性を相当意識することになる。

現在でも、馬をより真っ直ぐ軽い扶助で変換させたいときや、変換のクオリティを上げるために利用しているトレーニング。

◇1歩毎を同じ直線上で3～5回を2回行う（初期）（中期）

変換の回数を増やすにつれて変換が小さくなり前へ出ていかなくなるときや、ミスが発生するときなどは、この方法でまずは確実に3～5回を行えるようにする。

◇中間駈歩で5～7回ほど行う（中期）

回数は15回以上行えるようになったが、後半失速してしまうときなどに行なったトレーニング。変換中でも前へ出ていく扶助を受け入れられるようになり、大きな変換で1歩毎ができるようになる。

▲ Djuice のフライングチェンジ（2018年アジア大会にて）

◇蹄跡上で1歩毎を行う（中期）（現在）

変換をより真っ直ぐにしたいときに蹄跡上で外側にラチや壁をおいて行う。逃げる方向側だけに壁をおいて行うのではなく、両手前で行えたほうが良い。手前と反対側に向かっての変換は難しいが、慣れてくると馬は真っ直ぐに変換するバランスを覚えやすい。

◇走路などで1歩毎を行う（中期）（現在）

走路など、普段のトレーニングと違う場所で馬が自分から前へ出やすい環境で行うと、騎乗者が前進の扶助を出す必要がないので自動的に馬が前へ出ている中で1歩毎を行える。これを利用することで、馬は無駄なプレッシャーを感じることがないのでよりリラックスして行えるようになり、身体の使い方も覚えられ、1歩毎のフィットネストレーニングにもなる。

以上のように、様々なトレーニング方法を実施してきました。単純に斜線上で数を練習するのではなく、変換のクオリティにこだわり、バランスやリズム、歪み、前進気勢など足りないものを改善していくことで15回以上の変換のクオリティを上げることに繋がります。現在では、1歩毎を15回以上行なったとしてもミスする雰囲気はありませんが、少し歪みが出たり、変換が小さくなる場面も見られます。今後も様々な方法を試して改善していきたいと思います。

Foals Excellent Dressage Sales

8月末に Foals（仔馬）の馬場馬術用馬のオークションが、研修先厩舎の Academy Bartels で開催されました。今年の春に生まれたばかりの乗用馬の仔馬のオークションは、良い血統や素質を持った馬を安価で手に入れられる可能性があり、その他にも自らの手で調教して長く楽しめる、オーナーとして調教を依頼して馬の成長を楽しむ、良くなったら売却するなど、初期投資が安いうえにその後の楽しみも多くあるためヨーロッパでは需要が多く、このようなオークションが盛んに開催されています。

今回は60頭が上場され、そのうち20頭が €10,000（約125万円）以上で落札され、最高額が €38,000（約475万円）でした。最高価格がついた仔馬の種牡馬は Livius（Bordeaux × Vivaldi）という4歳の KWPN ですが、この種牡馬の仔4頭が €19,000以上で落札されるという優秀な成績をおさめました。私の感覚では、仔馬オークションで €10,000以上で落札される馬は、素人目に見ても良い動きを見せる馬が多いです。

オークションに上場される仔馬は母馬と一緒に連れて来られ、会場となる馬場では母馬は人に引かれ、仔馬はその横で一緒に走るようにしてプレゼンテーションが行われます。馬場の中では仔馬に引き手を付けることはなく、馬場の周囲には多くの人が追い鞭を持って外に逃げないようにしています。さすがに脱走してしまう仔馬はいなかったものの、このプレゼンテーションでは仔馬のキャラクターの違いが見られました。賢い馬はこのような環境でも動じずに母馬と一緒に走りますが、どうしてよいかわからずパニックになって1頭で走り回る仔馬もいました。このようなキャラクターの見極めを行うこともオークションの醍醐味の一つですが、仔馬が健気に走り回る姿は微笑ましくもあります。どの馬にも値段がつけられて、新たなオーナーのもとへ売られていきますが、それぞれに色々な期待が込められているものと思います。この仔馬たちがそれぞれの道で成功してくれると良いなと思える光景でした。

▲最高額で落札された仔馬

▲馬運車で放牧場に到着

▲待機中の母馬と仔馬

▲母馬のみ引き手をつけて馬場に入場

▲プレゼンテーション